

【家庭医療・診療所コース】

徳島健生病院は3つのタイプの異なる診療所と連携し、地域医療に貢献しています。職業病（振動病・じん肺）においては、西部診療所を中心に先駆者的な働きをしてきました。幅広いフィールドから様々な症例を経験する事ができます。また、個々希望によっては専門性を高める事もできます。研修を進める中で医師として総合的に成長しましょう。

（研修の期間） 3年（希望により期間延長可）

（研修の場所） 徳島健生病院（市内中心部）
健生西部診療所（県西部の山間過疎地域：労災職業病多い）
健生阿南診療所（県南部の地域）
健生内町診療所（市内中心部・サテライト診療所：在宅診療など）

（目標医師像） 中小病院の総合内科医師、あるいは診療所の所長として専門医と連携しながら「人」を全人的に診ることができる医師

（研修の到達目標）

1. 診療

- ・ Common disease に適切に対処できること
- ・ 地域で生活している患者さんを、全人格的・社会的にとらえ疾病を生活と労働に密着してとらえられる目と構えを養うこと
- ・ 救急医療に対処できること
- ・ General Physician として、初期研修で身につけた内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科の力量を高めること
- ・ 地域で求められる検査（放射線検査・US・〈GFS〉等）が実施できること
- ・ 慢性疾患管理に習熟すること（管理基準にもとづいて）
- ・ 労災、職業病（振動病、塵肺）の診断、治療ができること、労基法をまなび診断書が書けること
- ・ 身体障害者の診断書が作成できること
- ・ 正しい処方箋の発行、薬の調剤・分包ができ、服薬指導ができること
- ・ 小児の薬用量に習熟すること
- ・ 患者さんの重症化に注意し、適切な時期に地域の病院ならびに徳島健生病院との医療連携ができること
- ・ 老年医学的総合機能評価（Comperhensive Geriatric Assessment:CGA）を用い、老年者のQOL向上につながる医療を実践する知識と対応能力を身につける
- ・ 終末期医療、緩和医療について習熟すること
- ・ 栄養管理、リハビリテーションを適切に処方できること
- ・ 医療倫理について理解し実践できること

2. 地域ケア

- ・ 過疎医療（西部診療所）の実態に学び理解を深めること
- ・ 予防接種や学校保険活動に触れること
- ・ 健康診断等の実施、判定、結果返しが行なえること
- ・ 在宅、介護、福祉と連携ができる知識を身につけること
- ・ 地域の保健、福祉、介護のニーズを把握し利用者を含め地域医療を担う診療所としての医療を提供できること
- ・ 在宅患者の治療計画をたて、訪問・往診を積極的に行なうこと
- ・ 地域の医療機関、福祉施設と連携がとれること

3. マネージメント

- ・ 患者及び家族、地域での治療方針や生活指導（ライフスタイルの改善）のマネージメントができること

- ・ 医療経営的な視点で診療所運営にかかわり、予算作成や決算をもとに医師としての経営的視点を身につけること
- ・ 医療生協の組合員班会や支部の会議に積極的に参加すること
- ・ 職員との良好な人間を築けること
- ・ 地域住民、職員等の学習や研修会に参加すること
- ・ 安全面に配慮し危機管理のリーダーシップがとれること
- ・ 医療制度、介護保険制度について理解すること
- ・ 臨床研修医（初期研修）の指導ができること

プログラム例

1年目から2年目を通して総合内科を中心に、各診療科ローテート

1年目-2年目	徳島健生病院総合内科を中心			
	外科	小児科	整形外科	眼科

3年目	診療所
-----	-----

各院所の紹介：徳島健康生活協同組合のホームページ
<http://www2.tcn.ne.jp/~hcoopt/innsyomain.htm>